

HATA MIKAKO

秦 美香子 教授

研 究 業 績

2024年4月1日現在

著書・論文等の区分	著書・論文等の名称、発行所・発表雑誌・学会等の名称、共著の場合の編者・著者名、該当頁数	発行・発表年月
編著書(共)	松井広志・井口貴紀・大石真澄・秦美香子 編『多元化するゲーム文化と社会』ニューゲームズオーダー	2019. 4
著 書(共)	「エッセイコミック、実用コミック——重いテーマと簡略な絵柄」竹内オサム・西原麻里編『マンガ文化 55 のキーワード』ミネルヴァ書房、72～75 頁	2017. 2
著 書(共)	「女兒とゲームの創造／想像的関わり」吉光正絵・池田太臣・西原麻里編『ポスト〈カワイイ〉の文化社会学』ミネルヴァ書房、83～107頁	2017. 4
著 書(共)	「大学教育におけるマンガの可能性——マンガ研究の視座から」早稲田大学教育総合研究所監修『早稲田教育ブックレット18 学校教育におけるマンガの可能性を探る』学文社、3～13頁	2018. 3
著 書(共)	「徐園『日本における新聞連載子ども漫画の戦前史』」吉村和真、ジャクリーヌ・ベルント編『ブックガイドシリーズ 基本の30冊 マンガスタディーズ』人文書院、52～60頁	2020. 6
著 書(共)	「ジェンダーの視点からゲームキャラクターを分析する」岡本健・松井広志・松本健太郎編『ゆるレポ』人文書院、54～57頁	2021. 11
著 書(共)	「『海外の日本アニメファン』のフィールドワーク——フィンランドの銀牙伝説ファン」圓田浩二・池田太臣編『ポピュラーカルチャーからはじめるフィールドワーク——レポート・論文を書く人のために』明石書店、41～70頁.	2022. 11

論文(単)	「北欧のマンガ文化およびマンガ研究の概観——フィンランドを中心に」『花園大学文学部研究紀要』第48号、1～25頁	2016. 3
論文(単)	「フィンランドにおける日本マンガの受容」『人間学研究』第15号、85～95頁	2017. 3
論文(単)	「『ドラゴンクエストⅡ』のジェンダー描写——戦闘の側面に注目した分析」『人間学研究』第17号、61～69頁	2019. 3
論文(単)	「作品と文化規範——手塚治虫「どろろ」の舞台化を事例として」『人間学研究』第18号、47～55頁	2020. 3
論文(単)	「マンガ作品と舞台作品の比較——『銀牙——流れ星 銀』を事例として」『花園大学文学部研究紀要』第53号、35～51頁	2021. 3
論文(単)	「漫画で表現される舞台」『花園大学文学部研究紀要』第54号、1～17頁	2022. 3
論文(単)	「「境界的存在としての動物」表象——『サザエさん』に描かれた猫に注目して」『マンガ研究』第29号、74～92頁	2023. 3
論文(共)	「アスリートが観客に対して持つ意識の質的分析——男子新体操の事例から」(秦美香子・野田光太郎)『花園大学文学部研究紀要』第49号、49～75頁	2017. 3
論文(共)	「男子新体操指導者海外派遣事業の分析」(野田光太郎・秦美香子・菅文彦・間野義之)『スポーツ産業学研究』第27巻第2号、121～133頁	2017. 4
論文(共)	「スポーツ・ビジネスの多様な展開——アルビレックス新潟ミャンマーサッカースクールの事例分析」(野田光太郎・秦美香子)『花園大学文学部研究紀要』、第50号、63～82ページ	2018. 3
論文(共)	「身体表現／体操競技としての男子新体操」(秦美香子・野田光太郎)『人間学研究』、第16号、27～35ページ	2018. 3

その他（単）	「2018年上半期の収穫から」『週刊読書人』、同2019年～2023年	2018. 7～ 2023. 7
その他（単）	「国家イメージの交流——日本とフィンランドの事例から」『花園大学文学部研究紀要』第 51 号、83～98 頁	2019. 3
その他（単）	「プレイヤーキャラクターをジェンダーの視点から見る——『ドラゴンクエスト』と『Final Fantasy』の事例から」『多元化するゲーム文化と社会』189～206 頁	2019. 4
その他（単）	「『「ストーリー漫画の父」テプフェール 笑いと物語を運ぶメディアの原点』書評——「世界初の漫画家」を論じる本」『週刊読書人』2019 年 6 月 28 日号	2019. 6
その他（単）	「メディア時評」毎日新聞、2019 年 9 月 5 日・10 月 3 日・10 月 31 日・11 月 28 日	2019. 9-11
その他（単）	「人文学的アプローチによるビデオゲーム研究」『花園大学 日本文学論究』第 12 号、57～65 頁	2019. 12
その他（単）	「うらたじゅん著『ザ・うらたじゅん』」『週刊読書人』2020 年 4 月 3 日号(五面)	2020. 4
その他（単）	「児童文学作品の翻訳・翻案に見られる、文化規範の翻訳」(『花園大学日本文学論究』第一三号)107～119 頁	2020.12
その他（単）	(書評)「橋本治『熱血シュークリーム——橋本治少年マンガ読本』」『マンガ研究』第 28 号、123～128 頁.	2022.3
その他（単）	「自分の道を、自分で決める——今井哲也の描く女の子たち」『ユリイカ』2022 年 11 月号、299～306 頁.	2022.11

口頭発表（単）	「ビデオゲームをジェンダーの視点から分析する——研究動向および事例研究」中部人間学会第18回大会	2018. 12
口頭発表（単）	「マンガによる時間表現——舞台へのアダプテーションを例に」中部人間学会第 19 回大会	2019. 11
口頭発表（単）	「マンガ作品と舞台翻案の比較——『銀牙——流れ星 銀』を事例として」2020 年日本マンガ学会オンライン研究発表会	2020.7
口頭発表（単）	「マンガ作品を舞台表現に翻案する—舞台出演者への聞き取り調査に基づく考察—」関西社会学会第 71 回大会	2020.10
口頭発表（単）	「翻訳と翻案——transcreation という視点から」中部人間学会第 20 回大会	2020.11
口頭発表（単）	「磯野タマ:『サザエさん』に見るペット描写」日本マンガ学会第 20 回大会	2021.7
口頭発表（単）	「描かれた猫——新聞漫画に注目して」日本社会学会第 94 回大会	2021.11
口頭発表（単）	「翻案による作品テーマの創出——『デスノート』に注目して」日本マンガ学会第 21 回大会	2022.6
口頭発表（共）	「マンガ—舞台間のアダプテーション——宝塚歌劇『ポーの一族』の事例から」(秦美香子・西原麻里・増田のぞみ・山中千恵)日本マンガ学会第19回大会	2019. 6